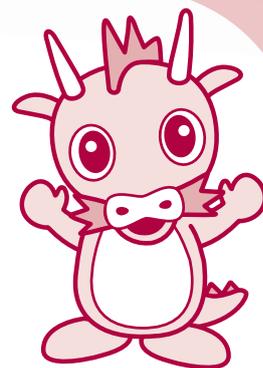


鐘の音

～かねのね～



vol.41
2019.3 発行



大宮の古い地名「鐘塚」。そこに建てられた「パートナーシップさいたま」から男女共同参画推進の鐘の音を響かせたい、そんな願いを込めて名づけました。

平成31年度講座のご案内

男性カレッジ2019

個人が持つ「生きづらさ」「働きづらさ」を乗り切る力を引き出すプログラムを実施し、自分も仕事も大切にするにはどうしたらいいかを考えてみましょう。

日時 2019年6月15・22日(土)
10:00～12:00/13:00～15:00
会場 パートナーシップさいたま 会議室3
講師 重川 治樹さん

男女共同参画週間 記念事業

毎年6月23日から29日までの1週間は「男女共同参画週間」です。この週間を記念して、講演会を開催します。今年、『男尊女子』『百年の女 - 『婦人公論』が見た大正、昭和、平成』の著者である酒井順子さんをお迎えします。

日時 2019年7月13日(土) 14:00～16:00
会場 生涯学習総合センター 多目的ホール
講師 酒井 順子さん

女性カレッジ2019

フォーラムシアターという手法を取り入れ、日頃私たちが直面しがちな問題を取り上げ、短い寸劇を作ります。また、自分を大切にできるようなコミュニケーションについても学びます。

日時 2019年6月28日～9月13日 の毎週金曜日
(ただし8月9・16日を除く) 10:00～12:00
会場 パートナーシップさいたま 会議室3
講師 熱田 敬子さん
高山 直子さんなど

HPのご案内

講座のお申込み時期、その他の実施講座については、市報さいたま、パートナーシップさいたまのホームページなどで随時お知らせします。右のQRコードを読み込んでアクセスすることもできますので、ぜひご覧ください。



メールマガジンのご案内

パートナーシップさいたまから、講座のご案内等をメールにて配信しています。ご希望の方は danjo-kyodo-sankaku@city.saitama.lg.jp までご連絡ください。右のQRコードからメールアドレスを読み込むこともできます。



講座に関する問い合わせ

さいたま市男女共同参画推進センター
(愛称:パートナーシップさいたま)
〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町1-10-18
シーノ大宮センタープラザ3階
TEL:048(642)8107 FAX:048(643)5801
E-mail: danjo-kyodo-sankaku@city.saitama.lg.jp



DV防止セミナー

「子どもはDVに気付いている ～子どもへの影響と対応～」



平成30年11月11日。精神科医・臨床心理士で、「こころとからだ・光の花クリニック」院長の、白川美也子医師を迎えてセミナーが開催されました。

講演は、「DV家庭にいる子どもたちは、DVについて気付いています」という言葉から始まり、その元凶、そして私たちがどのように対応すれば良いか等、以下の内容で進められました。

①トラウマ(心的外傷)やPTSD(心的外傷後ストレス障害)の専門家としての立場から、DVの被害者とその二次的な被害者ともいえる子どもへの影響について。
②DVにさらされた成人や子どもが示す症状。

③大人のトラウマから子どものトラウマにわたる広範囲な影響の理解。
④一般的なケアと専門的なケア。

子どもへの影響に関して中心に語られたのは、脳細胞が損傷して発症する「発達性トラウマ障害」のメカニズムについてでした。直接的な身体暴力よりも、暴言や暴力場面にさらされる面前DVの方が脳細胞を損傷させることが科学的に判明しているそうです。子どもはDVが起きた状況や場面で絡めて記憶する特性があり、成長過程ですらしたトラウマも刷り込まれて学習してしまうため、子どものトラウマ後の症状は複雑なのだとか。脳に刻まれたトラウマ記憶は、類似した状況時だけでなく、安心時にも当時の感覚が再生されてしまうとのこと。そのため加害者との別居後に異変が現

れやすく、全ての子どもに何らかのカタチで出てくるといいます。また、子どもの誕生とともに始まるDVの場合、母親が乳児に注意を払えないために、母子間の交流で育まれるはずの脳の機能が成長できず、より深刻な障害をもたらすそうです。

トラウマの連鎖を防ぐため、成人だけでなく、乳児院、児童養護施設、出産を扱う婦人保護施設など社会福祉施設での活動にも力を入れている方だけに、支援する際の言葉がけやリラクゼーション法などケアに関する具体的なお話も聞くことができました。DV環境が与える子どもへの影響力に圧倒されると同時に、問題を解決できるといふ希望も感じた2時間でした。

この日の内容は、著書「赤ずきんとオオカミのトラウマ・ケア」にさらに詳しく解説されているとのこととす。

(三澤 裕子)



「赤ずきんとオオカミの
トラウマ・ケア
自分を愛する力を取り戻す
(心理教育)の本」

白川美也子 著
(アスク・ヒューマン・ケア)

トラウマによる症状、回復のプロセス、支援の方法について物語仕立てで分かりやすく示しています。著者が学んできたことの全てを注いだという本書は、当事者や当事者のご家族、そして当事者を支える方に向けた内容です。

コラム

多様性

私には子どもが2人います。上が男の子で下が女の子。赤ちゃんの時に「まあ、かわいい女の子」と息子は言われ、「あら、きりっとした男の子」と娘は言われて悩んでしまいました。

それが性格と関係あるかはわかりませんが、娘は小学校低学年まではスカートを好きで女の子らしい格好をしていましたが、3年生の時からスポーツ少年団に入ったからスカートをはかなくなりました。友達と、スカートをどうしたらはかなくて済むかを考えているようで、中学からは運動部に入り部活と通学はジャージで通い続け、どうしても制服で行かなくてはいけないときだけスカートをはいっていました(スカートの下にはジャージをはいっていました)。そんなに嫌ならばと学校にジャージ通学をお願いに行きましたがもちろんだめで、その後は私服でもスカートをはかなくなりました。運動部で髪の毛は短く切り、あまりおしゃれもせず、時々男の子と間違えられることを喜んでる様子で、自分のことを「はく」と言うようになりました。「同性が好きなのかもしれない」と頭をよぎり、母親として不安な時期もありました。30歳を過ぎた今も変わりませんが、「彼氏に振られた」と大泣きしたりしていたので男性が嫌いとか嫌ではないようです。

こう考えてみると、性の多様性は身近なところにある問題のように思えます。これからの時代は多様性を考えていかななくては。女・男でなくいろいろな生き方があるのだと思い、「みんな違って、みんないい」の大切さと難しさを考えながら「人と違ってもいい、お互いの違いを認め合う社会」になるよう、これからも様々な生き方を応援していきたいと思っています。

(武田 礼子)



武藤 勝美 さん (グループ・メッセージ)

大宮市女性情報誌「メッセージ」編集協力員、さいたま市男女共同参画推進センター情報誌「鐘の音」編集委員を務め、現在もさいたま市男女共同参画推進団体連絡協議会の広報部会副会長として「女・男フェスタさいたま」に参加するなど、20年以上にわたり本市の男女共同参画の推進にご尽力いただいている武藤勝美さん(さいたま市在住)にお話を伺いました。

——男女共同参画や女性の問題に興味を持たれたのはいつですか。

最初のきっかけは、市報を見て、大宮市の女性情報誌「メッセージ」の編集協力員に応募したことだと思っています。元々ものを書くのが好きで、「わが鉄道のある風景」「ある国鉄マンの人間模様—食べ物交友抄—」という図書を出版したり、新聞に投稿したりしていました。選考で選ばれ「メッセージ」の初代編集協力員を務めましたが、編集協力員の任期が切れるとき、女性行政に関する催しに参加し、会員相互の研鑽を図ることを主な目的として、他の編集協力員たちと「グループ・メッセージ」という団体を結成しました。パートナーシップさいたまと繋がりができたのは、さいたま市男女共同参画推進団体*1として団体登録をした時からです。現在も、団体で「女・男フェスタさいたま*2」に参加しています。

——「メッセージ」では、編集協力員の男性はお1人だったそうですね。

はい。でも、最初から抵抗感や気まずさはありませんでした。編集協力員の女性たちがパワフルな方ばかりだったこともあり、性別をあまり意識せず、自然体で話せていました。私自身、長く勤めていた会社は男性ばかりでまさに男社会だったのですが、自分の中で男だから、女だからということを強く意識したことはありませんでした。元々そういう性格だったのかもかもしれません。

——長きにわたってさいたま市における男女共同参画の推進にご尽力いただいておりますが、活動に参加してよかったと思うことはありますか？

私が「メッセージ」の編集協力員に応募したのは退職したタイミングでしたが、北京会議*3(1995年)があり、ちょうど世の中に女性政策を推進していくムードが出てきたときだったんです。たまたま、講演会を聞

きに国立女性教育会館を訪れた際、聴講者の中に「でしゃばるな！」と男性から言われた経験があるという女性が出て、まだまだ女性が社会に出ていくのは難しいんだと肌で感じていました。その中で、長年にわたり市民と職員との隔たりなく、男女共同参画という一つのテーマに対してパートナーシップさいたまと協働できたのはよかったです。

——パートナーシップさいたまに求めることはなんですか？

さいたま市では、男女共同参画に関する若年層の討論があまり活発でないのを残念に感じています。講座で訪れるだけでなく、パートナーシップさいたま自体の知名度が高まっていき、若年層の方もたくさん訪れてくださる場所になればいいと思っています。「女・男フェスタさいたま」に関しても同様で、様々な世代が運営に携わっていくことができれば、もっと素敵な催しになると思います。私も、まだしばらくはパートナーシップさいたまの活動をサポートできればと思っています。(インタビュー 新藤 賢十郎)

*1さいたま市男女共同参画推進団体……次の3点を満たしている団体が、男女共同参画推進団体として登録し活動しています。

- 1.さいたま市に活動拠点が有り、現在活動している団体
 - 2.男女共同参画の推進を目的としている団体
 - 3.政治・宗教活動、営利を目的としない団体
- 加入を希望される団体の方は、パートナーシップさいたまへお問い合わせください。

*2女・男フェスタさいたま……男女共同参画社会の実現に向けて、市民意識の高揚と理解の促進を図るため、さいたま市とさいたま市男女共同参画推進団体連絡協議会の主催により男女共同参画意識啓発事業として開催するイベント。

*3北京会議……1995年に開催された、第4回世界女性会議のこと。女性の地位向上を目的として、国際連合主催の元開かれた会議。北京会議では、女性の性の権利(セクシュアル・ライツ)の問題が重要な論点となった。

相談のご案内

●相談は無料です。●秘密は厳守します。

●女性の悩み電話相談

女性の生き方、夫婦、親子の問題、職場や近隣の人間関係などの相談に応じます。

子ども家庭総合センター 男女共同参画相談室	☎048-711-6650
月～金/10:00～20:00 土・日・祝/10:00～16:00	
浦和区役所 女性の相談室	☎048-829-6129
月・火・水・金/10:00～17:00	
中央区役所 女性の相談室	☎048-840-6132
火・金/10:00～17:00	
岩槻区役所 女性の相談室	☎048-790-0158
月・水/10:00～17:00	

●女性のDV電話相談

☎048-762-3880 月～金/10:00～17:00

●女性のための法律相談(予約制)

女性の弁護士が相談に応じます。

パートナーシップさいたま 第2・第4水曜日/13:00～15:30	☎048-642-8107
男女共同参画相談室 第1・第3火曜日/13:00～15:30	☎048-711-5739

●女性のための心の健康相談(予約制)

専門の女性の医師が相談に応じます。

男女共同参画相談室 第4金曜日/13:30～16:15	☎048-711-5739
※平成31年4月からは第4月曜日に変わります。	

●男性の悩み電話相談

男性の生き方、仕事、家庭、夫婦、人間関係などの相談に応じます。

男女共同参画相談室 第2・第4火曜日/18:30～20:30(祝日は除く)	☎048-711-6101
--	---------------

男女共同参画推進センター広報誌 「鐘の音」編集員を募集します

編集員として、一緒に「鐘の音」を作ってみませんか？

募集人員：2名程度

任用期間：平成31年4月1日～平成33年3月31日

応募資格：市内在住、在勤又は在学の方

(ただし、年8回程度開催する平日の会議に出席できる方)

活動内容：編集員会議における意見交換及び原稿の作成その他編集に必要な業務に関すること

活動場所：さいたま市男女共同参画推進センター 会議室

応募方法：応募動機を800文字以内厳守で、任意の用紙に横書き(市ホームページに用紙あり。)の上、住所、氏名、(ふりがな)、年齢、電話番号を明記し、男女共同参画推進センターへ直接持参または郵送。

謝 礼：交通費相当分(編集員会議への出席1回につき1,000円)

託 児：あり(6か月以上の未就学児)ただし、損害保険料各回30円は実費負担。

平成31年
3月20日(水)
締切

※詳細はパートナーシップさいたまのホームページをご覧ください。

ワーク・ライフ・バランス出前講座を実施しました



平成30年11月7日、関東財務局で出前講座を実施しました。講師によれば、「働き方改革」は経営革命であり、暮らし方革命であり、社会全体の問題である。それを担う要であり、現場の推進者は「上司」だ。日本は横並び意識が強いので、「18時で強制的に家に帰す」など一斉に働き方に関する制度を整えることが重要視されているが、最も大切なことは、チームの中に心理的安全性が保たれ、誰もが発言できること。他者の発言にまずは「いいね」と言える文化を育てることである。それが、社員の幸せと会社の成果の好循環という結果に結びついてくるのである。(事務局)

ほっとたいむ

春が近づき、芽吹く草木をみると新しい季節の訪れをしみじみ感じます。わくわくよりしみじみ。歳月を振り返ってひたるくらい歩んできたということでしょうか。

二十代、鏡をみると大人になったと自覚でき、年齢を認識しました。三十代、年齢が増す恐怖を感じるようになりました。物を言う年長者をうるさく思い、顔に刻まれる皺がイヤで、時の流れにあらがおうと焦燥を感じました。

上手く生きられないと感じる女性に伝えたいと思います。大丈夫、人生は素晴らしい！心配御無用、問題なし。

未来は希望に溢れ、幸福に満ちています…とは言い切れないけれど、歩みを振り返るくらい生きてみると、すべて愛しく思うようになるんです。人も社会も自然も自分も何もかも許し受け入れ、面白く感じるんです。

(河西 純恵)



JR大宮駅西口 徒歩8分

自転車でお越しの場合、シーノ大宮駐輪場が無料でご利用いただけます。



広報誌「鐘の音」のご感想、ご意見をお寄せください。

郵便、FAX、E-mailでパートナーシップさいたままでお願いします。

パートナーシップさいたま広報誌「鐘の音」vol.41 2019年3月1日

〈編集・発行〉

さいたま市男女共同参画推進センター(愛称：パートナーシップさいたま)

編集員/河西 純恵・新藤 賢十郎・武田 礼子・三澤 裕子

〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町1-10-18 シーノ大宮センタープラザ3階

電話 048-642-8107 FAX 048-643-5801

E-mail : danjo-kyodo-sankaku@city.saitama.lg.jp

◆ホームページもご覧ください◆ パートナーシップさいたま 検索

10・3月発行(年2回)

この広報誌は79,500部作成し、1部当たりの印刷経費は5.1円です。